

## 働く時間も働く場所も自分で決める！ 新しい働き方「テレワーク」を推進します



川根本町では焼津市と連携してテレワークを推進しています。実際に働くためのスキル習得と仕事の提供をセットにして展開していきます。

この事業では、テレワークに必要なITスキルを学び、企業から継続的な業務委託を受けて仕事をしたい人材を募集します。

扶養内での働き方はもちろん、それ以上の収入を得る働き方も選択可能です。

事業の詳細についてはホームページをご覧ください（右側のQRコードから見るができます）。



△テレワーク事業の詳細はこちら

### ▶「テレワーク」とはなんですか？

ICTを活用した労働形態として、時間や場所の制約を受けない柔軟な働き方を意味します。

サテライトオフィスのような場所で本社と同様の作業を行う場合や、自宅や出先で決められた作業を行う場合があり、「日常のすき間時間を利用して受けておいた細かい仕事をこなして副収入に」といったような働き方も可能です。



△説明会についてはこちら

※町ではテレワークに興味を持たれた方向けの説明会を企画しています。ご興味のある方は右側のQRコードよりホームページにてご確認ください。

●テレワーク事業に関する問合せ先 企画課 (56) 2221

## 楽しく学び合う「IT人材育成」の取り組み 「かわねICTクラブ」が始まります

ここ数年で情報化、グローバル化が急速に進み、IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)が日常生活に広く浸透する時代に求められる人材を育成していくことが必要とされてきています。教育分野でも、新しい時代に必要となる能力を子どもたちが備えることができるよう、2020年から実施される新学習指導要領に小学校におけるプログラミング教育の必修化が盛り込まれています。

そのような中、川根本町では、地域において児童生徒や地域住民がプログラミングなどのICT/IoTを楽しく学び合い、新しい時代の絆を創ることを目的として総務省が実施する「地域におけるIoTの学び推進事業」地域実証事業の採択を受け、「かわねICTクラブ」を設立します。指導者やサポーターとして町民の皆さんの参画を得て、タブレット端末やロボットを使ったプログラミングを楽しく学ぶ活動を行っていきます。

### 「プログラミング教育」とは？

プログラミング教育は、コンピュータを動かすための知識を学習する中で

- ①コンピュータにやってもらいたい動きを決める
- ②どのような動作を組み合わせれば、それができるかを考える
- ③考えたとおりにプログラムをつくる
- ④実際に動かしてみる
- ⑤不具合が出たり予定どおり動かなかったら原因を考える
- ⑥つくったプログラムを修正して再度試してみる

という一連の課程を学ぶことにより、目的を達成するための手段や物事を論理的に考えたり、知識や情報を整理する力を身につけていくというものです。



▲プログラムで動かす教育用ロボット

●かわねICTクラブに関する問合せ先 情報政策課 (56) 2232

# 川根から世界大会へ!! 小泉成行さん(崎平) オリエンテーリング世界選手権出場



8月の下旬から中旬にかけて東欧のバルト海沿岸に位置する国ラトビアで開催されたオリエンテーリングの世界選手権に出場した小泉成行選手。  
6年前に川根本町へ移住し、現在は崎平在住です。小泉選手がオリエンテーリング競技に出会ったのは大学在学中の20歳の頃で、1年目に出場した全国大会の新人の部で2位となったことが選手として競技を続けるきっかけになったそうです。

現在は会社を立ち上げ、アウトドアのインストラクターとして地図の読み方やコンパスの使い方を一般の方にアドバイスするほか、オリエンテーリングやトレイルランニングのコース設計や調査などを行っています。  
小泉選手の世界選手権出場は5年ぶり9回目です。「コースをつくる仕事をしている中で、ルートを設定している人の意図が読み取れるようになってきた。それを強みに頑張りたい」と意気込みを語りました。世界選手権では、ヨーロッパ選手などの強豪を相手に、個人競技の「ロング」と3人チームの団体戦の「リレー」に出場しました。

### オリエンテーリング競技とは？

スタート時に渡される地図に記されたチェックポイントを順番どおりに回りながらゴールするまでの時間を競うヨーロッパ発祥の競技です。

競技は野山で行われる「フォレスト」と市街地などで行われる「スプリント」に分けられ、コース地図で指定されるエリアの広さで「ロング」「ミドル」といったように距離が分けられます。自分の足で走るものを「フット」と呼びますが、競技としてスキーや自転車を組み合わせる場合もあります。

競技に使われる地図に記載されている地形や障害物の情報から「速く進めるルートを考えて正確に走る」ことが必須になるため、コースを走破する体力だけでなく地図を素早く読み取り記憶する能力も必要とされるスポーツです。



●競技で使用される地図の例  
数字がチェックポイントと回る順番  
色分けされたヤブなどの地形情報を見て  
目的地に早く行けるルートを考えます



●左手に持っているのが地図とコンパス  
走りながら位置と方角を確認します



●オレンジと白の標識がチェックポイント  
指定の順番どおりに回り時間を競います